

## 高齢者の温熱治療における副作用対策

玉名地域保険医療センター

○村上 順平（ムラカミ ジュンペイ）

龍井奈緒 藤丸佳子 上門仁美 井尾健剛 前田圭介 赤木純児

【はじめに】温熱治療の副作用として熱中症、脱水症があげられる。当院では高齢者の割合が多く、熱中症の様な訴えが多くあった。熱中症を未然に防ぐため患者の体内組成水分量の計測を行った。

【対象】Performance Status 0~2 男女合計 18 名。平均年齢 69.6 歳

【方法】治療前後の体内組成水分量を BIA 法で計測。

【結果】治療前の体内組成水分量は 18 名中 6 名（33%）が基準値よりも低かったが、治療前後では途中水分摂取を行っているため、有意差は見られなかった。基礎代謝量は一日平均 1178kcal であるが温熱治療により平均 345kcal、約 1/3 消費していた。

【まとめ】①治療前の段階で患者へ体内組成水分量を提示することで、水分摂取の理解が得られ指導が容易になり熱中症の訴えが減少した。②低栄養状態の患者への温熱治療は最高出力や回数の見直しが必要と考えられた。